

ISCC Event - Opportunities of sustainability certification in Japan

Biomass Power Generation Business in Japan and Expectations for ISCC 日本におけるバイオマス発電事業とISCCへの期待



KAMISU 神栖パワープラント合同会社

October 12th, 2022

Kenichiro Yanagida

柳田 健一郎

Kamisu Power Plant LCC.

神栖パワープラント合同会社

Overview 企業紹介

About Us



- Kamisu Power Plant LLC
- 6170-55 Okunoya, Kamisu, Ibaraki, 314-0116 Japan. (2,000m²)
- Biomass Power Plant (IPP)
- Capital JPY10,000,000.
- CEO Toshio Hamamura
- Operating 38.850kW Biomass Power Plant
- Certificate ID for Renewable Power Generator : OC38942C08



神栖パワープラント合同会社

Overview 企業紹介

Project Size



■ Generator Output:	38,850 kW
■ Annual Power	
■ Transmission Volume:	307,692,000 kWh
■ FIT price Liquid Biomass Fuel category	JPY24 / kWh
■ FIT Period	20 Years
■ Commercial Operation Date	Jul., 2017

日本のバイオマス発電所の原料需要

- ▶ 日本のバイオマス発電事業所：全国955サイト、29,727.6メガワットを発電（2021年実績）。FIT制度下でのバイオマス発電導入量は525万キロワット（2021年6月時点）。
- ▶ PKS、木質バイオマス（ペレット）：日本国内ではFIT制度対象。FIT外でも第三者認証を受けた燃料が必要。
- ▶ パーム油発電：発電所数8発電所（6社）13.5万キロワット。
- ▶ JCSBG3社で必要なパーム油燃料使用量は、コロナ禍前の稼働状態であれば年間で最大約15万トン程度（日本国内の年間パーム輸入量は2020年時点で約68万トン）。

日本のFIT制度の規制と発電所への影響

- ▶ 経済産業省資源エネルギー庁が設置している調達価格等算定委員会の下に、FIT制度での持続可能性基準等を議論・確認する持続可能性WGが設定されており、同WGで決められた持続可能性基準をクリアする第三者認証にのみ、FIT制度での燃料使用が認められる。
- ▶ パーム油に関しては、RSPO、RSBが既に認定されているが、その他の認証、例えばISPO、MSPO、ISCC（パーム油）は本年も継続審査中。調達で利用可能な認証油が非常に限定的。特にRSPO認証油（IP/SG）は、商社経由での調達では市場流通量が少なく、調達は極めて困難な状況。
- ▶ JCSBGに加盟するバイオマス発電事業者3社は、既認定事業者であり、現在FIT制度下では今年度まで持続可能性基準の経過措置期間の適用を受けているが、来年度からは経過措置が延長されない見通し。
- ▶ FIT制度からFIP制度を検討するバイオマス発電事業者もある。

日本のFIT制度の規制と発電所への影響

- ▶ 持続可能性WGでは、現在ライフサイクルGHG排出量に関する基準について議論中。2030年以降、基準値（2030年エネルギー믹스を想定した火力発電：180g-CO₂/MJ電力）の70%削減目標が課せられる見通し。

規制段階	基準値		
	実現時期	制定開始～2025年度	2030年度以降
2025年度まで	なし	自主的取組の情報開示・報告	
2025年度～削減50%達成	なし	▲50%	▲70%
削減開始～2030年度まで	—	▲50%	▲70%
2030年度以降	—	—	▲70%

※2031年度以降の削減率は、2025年度頃を目途に必要に応じて検討

- ▶ 2022年度以降FIT認定を受ける事業者は、第三者認証機関を通じて、GHG削減目標をクリアしていることを証明する必要がある見通し。

ISCCは認証製品でどのように役立つか

- ▶ 日本国内におけるバイオ燃料の需要は大きいものの、持続可能性等の観点から、第三者認証がなければ信頼されない。特にパーム油は、一般に持続可能性への懸念から、FIT制度にかかわらず、第三者認証がなければビジネスにならない。
- ▶ 特に輸入木質バイオマス燃料については、昨今、NGOから強い批判の声が上がっており、ISCC認証によるリスク低減は事業者にとって有効な選択肢になる可能性がある。

なぜ他の認証制度ではなくISCCなのか?

- ▶ ISCC認証はマレーシア、インドネシアのサプライヤー（パーム農園・ミル）で既に取得済みが多く、RSPOより調達しやすい。
- ▶ ISCC認証はEU基準に適合し、バイオ燃料分野で幅広い認証実績あり。
- ▶ ISCCなど認証の多様性は、マーケットとして必要。燃料調達の選択肢ができる。

→日本のFIT制度におけるISCC認証の承認・採用について、経済産業省/資源エネルギー庁に対し、持続可能なバイオ燃料発電コンソーシアム（JCSBG）でも働きかけてきた。ISCC側もより積極的に日本政府にアピールいただきたい。

ありがとうございました。
THANK YOU.

<http://kamisupower.com/>

<https://jcsbg.org/>



神栖パワープラント合同会社